

## 紡がれてきたこと

仲嶺 真弓

6月17日に祖父母交流会を開催しました。参加者は、39家庭（52名）でした。たくさんのご参加ありがとうございました。年に2回しかない祖父母交流会、祖父母の方とお話できるこのひと時のチャンスをどう楽しもうかと、職員一同内容を考え当日を迎えました。各クラス、年齢に合った遊びを取り入れ、0歳児は室内遊具のアスレチック、1歳児は指先を使ってのシール剥がし&貼り遊び、2歳児は粘土遊び、3歳児は紙飛行機作り、4歳児はリトミック、5歳児はお店屋さんごっこ遊びと日々の保育の一コマを祖父母の方と一緒に楽しみながら体験していただけたらと各担任は思考を凝らしていました。その後、交流会へ。各クラスで、日々の保育の写真を見ながら、子どもたちの話や保育園についての話をしました。少しおやつタイムを設け、調理員も給食についての話もしました。私は、今回祖父母交流会初参加の方が多かった1歳児クラスの交流会をのぞかせてもらいました。交流会の中では、祖父母交流会の感想も話してくれました。「一緒に遊べて孫の成長がよくわかった。」「木の香りがする素敵な園舎ですね。」「子どもの表情がのびのびとしているので、とてもいい環境で生活できていることに安心しました。」などなど…。感想を聞きながら、アトム共同福祉会の原点を思い出していました。

アトム共同福祉会の歴史をさかのぼると、つばさ共同保育園開園は2012年。姉妹園のアトム共同保育園開園は2003年。同年社会福祉法人アトム共同福祉会設立。アトム共同福祉会の前身は無認可のアトム共同保育所。アトム共同保育所は1967年に京大原子炉実験所の職場保育所として開所しました。働く保護者同士が知恵を出し合って、保育士を探し、給食も各家庭が持ち寄って対応し、原点となる保育所が誕生しました。長い歴史の無認可時代のアトム園舎は今とは比較にならないほどの劣悪な環境でした。それでも、子どもたちが少しでも心地よく過ごせる環境にしようと、保護者と職員が知恵を出し合いながら保育所を存続してきました。存続と同時に、未来の家族のために、いつか認可され、環境も整った保育園になるようにと願いを込めてバザーなどで資金集めもしていました。その時代のOB保護者の顔やその時代の情景を思い出しながら、今あるこの環境は、決してあって当たり前ではなく、先人の知恵や努力と“未来の子どもたちのために”という思いを脈々と受け継がれ、紡いできてくれた歴史の途上に今があることを私たちは忘れてはいけないと思っています。そう話す私は、アトム共同福祉会と出会って30年になり、偶然にもアトムとはほぼ同い年。アトムの原点の50年前のことは、私自身も聞いた話を記憶に留めているだけですが、そのことも含め折に触れ、先人の思いを伝える語り部役も果たしていくのが私にできる一つの役割かと考えています。職員は基より保護者もこんな歴史があることを記憶の片隅におき、時々でいいので、先人の思いに思いを馳せてもらえたらと思います。

6月10日（土）に、園庭柵周りの木の土入れ作業&砂場の砂入れ作業&0・1歳児部屋裏の草刈り作業、無事終わりました。参加は、父5名 母1名 OB保護者2名 職員4名でした。子どもたちが心地よく過ごせる環境作りのために、一緒にいい汗を流してくれたことに感謝です。これもまた、歴史に残る1ページです。今年度の緑化委員（職員で役割分担をしています）の山本知輝からのメッセージで「自然が相手なので、またお願いすることがあると思いますが、よろしくお願いします。」とのことでした。園長の私からも、“できる人が、できる時に、できることを”をモットーと一緒に楽しみながら、園舎メンテナンスをしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

